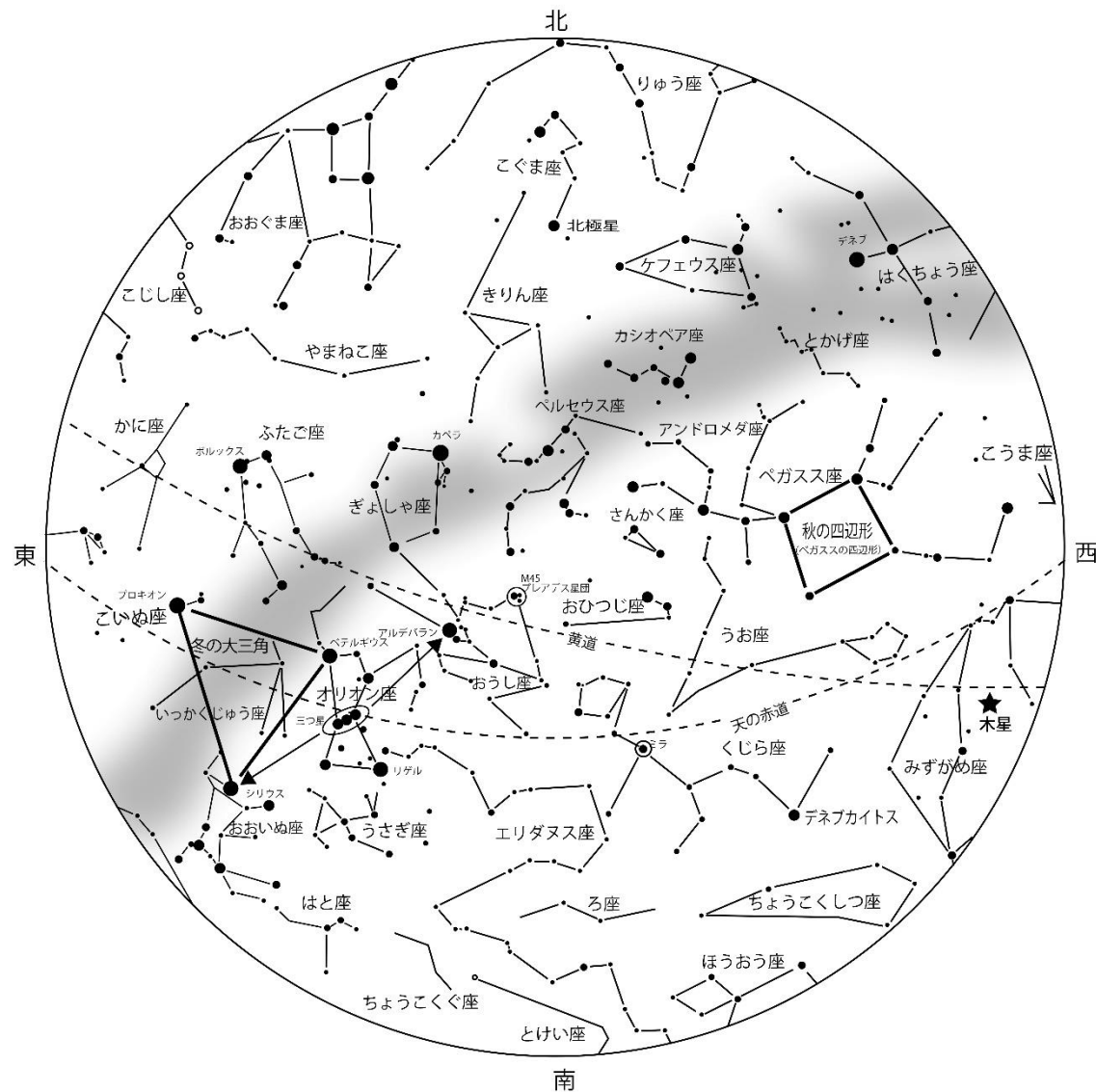


令和4年 1月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



★1月の星空案内

今月の星座探しは、等間隔に並んだ3つの星“三つ星”と、それを取り囲む明るい4つの星が砂時計のような星の並びをしているオリオン座から始めましょう。“三つ星”の左上で輝く星は1等星ベテルギウス、右下で輝く星は1等星リゲルです。ベテルギウスは赤っぽい色をしていることから“平家星”、リゲルは青白っぽい色をしていることから“源氏星”とも言われます。オリオン座の“三つ星”を北西(右上)にのばしていくと、オレンジ色っぽく輝くおうし座の1等星アルデバランが見つかります。さらに、その先には肉眼でも6個から7個の星が集まって見えるプレアデス星団(M45)が見つかります。プレアデス星団の和名は“すばる”といい、平安時代の随筆『枕草子』のなかで清少納言がその美しさを讃えています。今度は“三つ星”を南東(左下)にのばしてみましょう。すると、全天で最も明るく輝くおおいぬ座の1等星シリウスが見つかります。そして、シリウスから北東(左上)に目線を移していくと、こいぬ座の1等星プロキオンが見つかります。このプロキオン、シリウス、ベテルギウスを結んでできる三角形が『冬の大三角』です。冬は空気が乾燥しているため星がきれいに見えます。オリオン座をたよりに、冬の大三角やすばるを探してみてください。

【見ごろの惑星】 (☆マークは、今月のおすすめです。)

- ☆水星(1.2等前後):いて座→やぎ座→いて座付近 日の入り後、南西の低空で輝く。(上旬~中旬)
- 金星(-4.5等前後):いて座付近 日の出前、南東の低空でひときわ明るく輝く。(下旬)
- ☆火星(1.5等前後):へびつかい座→いて座付近 日の出前、南東の低空で赤っぽく輝く。
- ☆木星(-2.1等前後):みずがめ座付近 19時頃、西南西の低空で輝く。
- 土星(0.8等前後):やぎ座付近 日の入り後、西南西の低空で輝く。(上旬)

2022年 注目の天文現象(まとめ)

- 1月 4日:しぶんぎ座流星群が極大(6時頃、見ごろは4日夜明け前:条件最良)
- 4月 1日前後:夜明け前の東の低空で、金星、土星、火星が接近して輝く
- 4月18日:明け方、東の低空で木星、金星、火星、土星が直線上に並ぶ
- 5月 1日:明け方、東の低空で木星と金星が大接近して輝く
- 8月13日:ペルセウス座流星群が極大(10時頃、見ごろは13日の夜明け頃:条件最悪)
- 9月10日:中秋の名月
- 11月 8日:皆既月食
(福岡 部分食の始め18時8分頃、食の最大19時52分頃、部分食の終わり21時49分頃)
- 12月 1日:火星が地球に最接近
- 12月14日:ふたご座流星群が極大(22時頃、見ごろは14日の夜遅く:条件悪)

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
3	月	● 新月 (03:33)	10	月	☾ 上弦 (03:11)
4	火	しぶんぎ座流星群が極大(6時頃) 【条件最良】	18	火	○ 満月 (08:48) ※本年最小の満月
7	金	水星が東方最大離角	25	火	☾ 下弦 (22:41)